第八講　実践練習(1)

一　次の文章を読んで、後の問題に答えなさい。

子曰、商也好与[A]賢己者処、賜也好与不若己者[B]処。不知其子視[C]其父、不知其人視其友、不知其君視其所使[D]、不知其地視其草木。故曰、与善人居、如入芝蘭之室。久而不聞其香。即与之化矣。与不善人居、如入鮑魚之肆。久而不聞其臭。亦[E]与之化矣。

（『孔子家語』による）

（注）子＝孔子。　商＝孔子の門人、子夏の名。　賜＝孔子の門人、子貢の名。
芝蘭＝霊芝と蘭で、いずれも香りの高い植物。　鮑魚＝魚の干物。　肆＝店。

問一　傍線部Ａ「与」、Ｃ「視」、Ｅ「亦」の訓読みを、平がなの現代かなづかいで書け。

Ａ＝

Ｃ＝

Ｅ＝

問二　傍線部Ｂ「不若己者」の書き下し文として最も適切なものを、次の１～４の中から一つ選べ。

１　己より若（わか）からざる者
２　己の若（ごと）くせざる者
３　若（も）しくは己ならざる者
４　己に若（し）かざる者

問三　傍線部Ｄ「視其所使」に、返り点を付けなさい（送り仮名は付けないこと）。

視　其　所　使

問四　本文の内容と最もよく合致するものを、次の１～４の中から一つ選べ。

１　商は自分より優れた者と交遊したため、彼らと同等になろうと強い向上心をもって努力した。
２　賜は自分より年長の者との交遊を好んだため、落ち着きがあり、風格のある人物になった。
３　優れた人たちと一緒にいると、ひとりでにその人たちに影響され、優れた人物になる。
４　よくない人たちと一緒にいると、彼らを反面教師とするために、行いを慎むようになる。

二　次の文章は『西京雑記』の一節である。これを読んで、あとの設問に答えよ（なお、設問の都合で返り点・送りがなを省略したところがある）。

婁(ろう)敬(けい)始メテ[1]因リテ㆓虞(ぐ)将軍ニ㆒[2]請ヒテ見(まみ)エントスルニ㆓高祖ニ㆒、衣(き)㆓旃(せん)衣ヲ㆒、披(き)ル㆓羊(やう)裘(きう)ヲ㆒。虞将軍脱ギテ㆓其(そ)ノ身(しん)上(じやう)ノ衣服ヲ㆒以テ衣(き)シメントス㆑之ニ。敬曰ハク、[3]敬本衣帛、則衣帛見。敬本衣旃、則衣旃見。今捨テテ㆓旃褐ヲ㆒、仮(か)ラバ㆓鮮華ヲ㆒、是レ矯(いつは)ル㆑常ヲ也ト。[4]不敢脱羊裘、而衣テ㆓旃衣ヲ㆒以テ見(まみ)ユ㆓高祖ニ㆒。

（注）
○婁敬――斉の人で、兵卒の出身だったが、高祖に都を長安にすべきと最初に進言した功績により、後に高祖と同じ劉姓を賜った。
○虞将軍――高祖の部下。
○高祖――前漢の初代皇帝、劉邦のことをいう。
○旃衣――粗末な毛織物の上着。
○羊裘――羊の毛皮でつくった衣類。
○帛――絹織物。
○旃褐――粗末な衣類のこと。
○鮮華――華やかな衣類のこと。

問一　傍線部１「因」と同じ意味をもつ字を次の①～⑤の中から一つ選べ。

①　依　②　原　③　以　④　及　⑤　本

問二　傍線部２「請」と同じ意味で「請」の字が用いられていない熟語を次の①～⑤の中から一つ選べ。

①　請願　②　請雨　③　請負　④　要請　⑤　請求

問三　傍線部３「敬本衣帛、則衣帛見」の書き下し文の読みとして最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選べ。

①　けいのもとははくをき、したがひてはくをきるをあらはす。
②　けいもとよりはくをきれば、すなはちはくをきてまみえん。
③　もとをうやまひてはくをきれば、すなはちはくをきられん。
④　けいもとのころもははくたれども、のりのころもははくとみる。
⑤　うやまひてはくをきるをほんとし、すなはちはくをきるにまみゆ。

問四　傍線部４「不敢脱羊裘」は「あへてやうきうをぬがずして」と読む。

（１）この読みに従って、返り点のみを付けよ。

不　敢　脱　羊　裘

（２）このような行動をとった理由を説明せよ。

三　次の文章を読んで、問いに答えよ（設問の都合上、訓点を省略した部分がある）。

晋ノ向靖字ハ奉仁、河内ノ人也。在リシトキ二呉興郡一ニ喪(うしなフ)二数歳ノ女ヲ一。女始メ病ミシ時、弄(もてあそブ)二小刀子ヲ一、母奪ヒ取ラントスレドモ不レ与ヘ、傷ツク二母ノ手ヲ一。喪後一年、母又産ム二一女ヲ一。女年四歳ノトキ、謂ヒテレ母ニ曰ハク、「前時ノ刀子ハ①何在リヤト。」母曰ハク、「無キ也ト。」女曰ハク、「昔争ヒテ二刀子ヲ一、故ニ傷ツク二母ノ手ヲ一。云-何(いかんゾ)無キト耶。」母甚ダ驚キ怪シミ、具(つぶさ)ニ以テ告グレ靖ニ。靖曰ハク、「先ノ刀子ハ猶ホ在リヤ不ト。」母曰ハク、「②痛二-念シ前女ヲ一、故ニ不レ録セレ之ヲ。」靖曰ハク、「③可更覓数箇刀子、合置一処、令女自択。」女見テ大イニ喜ビ、即チ取リテ二先ノ者ヲ一曰ハク、「此レ是レ児ノ許(もの)ナリト。」父母大小乃チ④知ル二前女ハ審(まこと)ニ其ノ先身ナルヲ一。

（『冥祥記』）

（注）向靖＝人名。　河内＝地名。
呉興郡＝地名。　刀子＝小刀(こがたな)。

問一　傍線①の「何」の読み方を、送りがなも含めてひらがなで書け。

問二　傍線②の「痛念前女、故不録之」の意味として、最も適当と思われるものを次の中から選べ。

1　死んだ娘の物を勝手に使っては申し訳ないと思い、使っていないのです
2　死んだ娘を悲しませたことが悔やまれるために、残していないのです
3　死んだ娘のことを思い出すのがとてもつらいので、使っていないのです
4　死んだ娘のことを悔やんでもしかたがないので、残していないのです
5　死んだ娘に手を傷つけられたことが許せないので、使っていないのです
6　死んだ娘のつらい気持ちを思うといたたまれず、残していないのです

問三　傍線③の「可更覓数箇刀子、合置一処、令女自択」の書き下し文として、最も適当と思われるものを次の中から選べ。

1　更に数箇の刀子の、合せて一処に置き、女をして自ら択（えら）ばしむるを覓（もと）むべし
2　更に数箇の刀子を覓むべくんば、合せて一処に置き、女をして自ら択ばしめよ
3　更に数箇の刀子を、合せて一処に置くを覓め、女をして自ら択ばしむべし
4　更に覓むべき数箇の刀子を、合せて一処に置き、女をして自ら択ばしめよ
5　更に数箇の刀子を覓め、合せて一処に置き、女をして自ら択ばしむべし
6　更に数箇の刀子を覓め、合せて一処に置くべくんば、女をして自ら択ばしめよ

問四　傍線④に「知前女審其先身」とあるが、その理由として最も適当と思われるものを次の中から選べ。

1　死んだ娘が、多くの小刀の中から自分にとって最も使いやすい小刀を選んだから。
2　死んだ娘ととてもよく似た口ぶりで、選んだ小刀が自分の物だと言い張ったから。
3　死んだ娘と同じ年令になった時に、母の使う小刀に興味を示すようになったから。
4　死んだ娘と顔がそっくりなうえに、小刀で遊ぶというところもよく似ていたから。
5　死んだ娘がかつてそうしたように、小刀を母親から無理に奪い取ろうとしたから。
6　死んだ娘の弄んだ小刀を知るはずがないのに、多くの小刀の中から見分けたから。

復習問題　第八講

①「隋田・楊与二鄭法士一倶以レ能レ画名。」の傍線部の読み方として、最も適当なものを次の中から選べ。

注　田・楊・鄭法士…隋代の画家。

ア　あづかりて
イ　より
ウ　くみして
エ　と
オ　あたへて

②「二三子不如妾知之也」の解釈として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　数人の門人は、誄の書き方を私よりよく知っています。
イ　夫のことは、私の方があなたたちよりよく知っています。
ウ　数人の門人は、徳について、私と同様よくわかっていません。

③「易レ地 a 皆然。」の空欄aに入れる最適な語を、次の中から選べ。

ア　而　　イ　当　　ウ　則　　エ　於

【第八講】

〔模範解答〕

一
問一　A と　C み　E また　**問二**　4　**問三**　視二其所レ使　**問四**　3

二
問一　①　**問二**　③　**問三**　②
問四　（1）不三敢脱二羊裘一
（2）普段と違う豪華な服を着ると、偽ることになるので、高祖には偽りのない姿で謁見し、誠実なままでいたかったから。

三
問一　いず〔づ〕くに　／　いず〔づ〕こに　**問二**　3　**問三**　5　**問四**　6

〔現代語訳〕

一

孔子が言うことには、「子夏は好んで自分より優れた者と居り、子貢は好んで自分より劣った者といる。ある子供のことをよくわからなければその父親を見て、ある人のことがよくわからなければその友人を見て、ある君主のことがよくわからなければその家来を見て、ある土地がよくわからなければそこに生えている草木を見る。だから『善人といるのは、霊芝と蘭のある部屋に入るようなものだ。長い時間そこにいるとその香りがわからなくなってしまう。つまり善人の影響を受けて善人になったのだ。悪人と一緒にいるのは、魚の干物の店に入るようなものだ。長い時間そこにいると匂いがわからなくなってしまう。これもまた、悪人の影響を受けてしまうのである』と言われている」と。

二

婁敬は話は遡るが虞将軍を頼りにして高祖にお目通りしようとしたときに、粗末な毛織物の上着を着て、羊の毛皮でつくった衣類を着ていた。虞将軍は自分が着ていた服を脱いで婁敬に着せようとした。婁敬が言うことには、「私はもとから絹織物を着ていれば、絹織物を着てお目通りします。私はもとから粗末な衣類を着ているので、粗末な衣類を着てお目通りします。仮に粗末な衣類を捨てて、華やかな衣類を借りたならば、これは普段を偽ることになります」と。（婁敬は）決して羊の毛皮を脱ごうとせず、粗末な衣類を着たまま高祖に謁見した。

三

晋の向靖、字は奉仁、河内の人である。呉興郡にいた時に幼い娘を亡くした。娘は病気になりはじめたころ、小刀を弄んでいて、母親が奪い取ろうとしたが渡さず、母親の手を傷つけてしまった。（娘が）亡くなってから一年後、母はまた一人の女の子を生んだ。その女の子が四歳の時に、母親に言うことには「あの時の小刀はどこにあるのですか」と。母親が言うことには「無いよ」と。女の子が言うことには、「昔小刀を奪い合って、それでお母さんの手を傷つけてしまいました。どうしてないのですか」と。母親はとても驚き不思議に思いことこまかに向靖に告げた。向靖が言うには、「その時の小刀はまだあるのかないのか」と。母が言うには、「死んだ娘のことを思い出すのがとてもつらいので、使っていないのです」と。向靖が言うことには、「さらにもう何個か小刀を求めて、合わせて同じところに置き、娘自身に選ばせなさい」と。娘が（小刀を）見てとても喜び、すぐに以前の小刀を取って言うことには、「これが私のものです」と。両親・家族がそこでやっと以前の娘が本当にこの娘の前世であることを理解した。

復習問題解答　第八講

〔解説〕

①「与」の読みの問題で返り点が付いていれば、「と」の可能性が高い。文脈上も「と」で訳してみておかしくないので、エが正解。

②まずは**比較**の句法「**不如**」（〜には及ばない）に気づけたかどうか。気づけたら、あとは「妾」の単語の意味。「妾」は女性の一人称「わたし」の意味なので、「わたしに及ばない」、「わたしの方がいい」という解釈ができているイが正解。ちなみに「二三子」は、弟子たちを呼ぶ語で「あなたたち」の意味。

③直前の送り仮名が「〜レバ」。よって、「レバ則」の「則」。ウが正解。

〔解答〕

①エ　②イ　③ウ